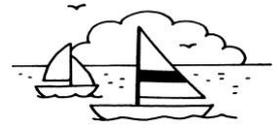


図書館通信7月号



平成 28 年 7 月 大泉第二中学校 図書館支援員 菊池

テストも終わり、みなさんが楽しみにしている夏休みまであと少しです。季節の移り変わりも進み、夏至を境に日照時間も短くなり始めます。実は一年の半分はもう過ぎてしまったのです。

ではこの半年で、あなたは何冊の本を読みましたか？たくさんの本を読んだ人であれば、まだ一冊も出会えてない人もいるのでは……。学校図書館に新しい本が続々入りしましたので、テスト明けの気分転換にぜひ利用してください。

勉強が、日々の予習復習が欠かせないように、スポーツも、日々の練習が欠かせません。実は読書も練習が必要です。脳には「読書筋」という場所があって、きたえればきたえるほど読書力があがるらしいのです。ただ活字を目で追うだけだった読書から、きたえられた「読書筋」によって、物語や文章の奥に隠された深い意味合いを理解し、深く物事を考えたり、想像したりする力がつくのです。(※菊池の仮説です)

なんでもすぐ吸収できてしまうみなさんの脳は、きっと「読書筋」もすぐ身につくと思います。どうか継続して本を読んでください。

♪ 目指せ！読書オリンピックの読書筋 (金) メダル

学校図書館は毎日昼休み開館しています。火曜日と金曜日は図書館支援員が来ています。
※色がついている日は開館しています。

7月開館予定日

月	火	水	木	金	土	日
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

夏休み前、特別貸し出しをします。
7月11日から19日は貸し出し冊数を5冊にします。
15日は放課後開放も予定しています。

第62回青少年読書感想文全国コンクールの課題図書が、学校図書館に届きました。

「ABC！曙第二中学校放送部」著 市川朔子

「白いイルカの浜辺」著 ジル・ルイス 訳 さくまゆみ

「生きる 劉 連仁の物語」著 森越智子



学級文庫の本&話題の本&発掘本

学級文庫の本

「アメリカひじき・火垂の墓」野坂昭如著

戦後70年。先月はオバマ大統領がアメリカの大統領としてはじめて広島原爆記念館を訪れました。

戦争で傷つくのはいつも弱いものです。戦争で両親を失った兄と妹は親戚に身を寄せますが、いつくなく河原で暮らし始めます。川魚を捕まえたり、畑のトマトを盗んだりして、兄は妹となんとか生き延びようとします。ある日、たくさんの蛍を集めて妹を喜ばせようとします。蛍が飛び交う様が悲しい物語のなかで、とても幻想的に描かれています。

話題の本

「小さいつが消えた日」

ステファノ・フォン・ロー著

最初に小さい「つ」とはいったい何でしょう。それは、ひらがなの「つ」のことです。しかも小さいほうの「つ」です。この話を書いた作者はドイツ生まれです。どうしてこんな楽しい話を思いついたのでしょうか？「雑誌(ざっし)はどこ？」は「匙(さじ)はどこ？」「ひどい結果(けっか)」は「ひどい(けが)」「魚が腐った(くさった)」は「魚が草(くさ)だ」小さい「つ」がいなくなって、街は大騒ぎになります。小さい「つ」は見つかるのでしょうか？

発掘本

「時計坂の家」高橋方子著

こんなに厚い本を読めるのかしら？大丈夫！読めます。まるでゲームの中に自分が入ってしまったような感覚になる本です。

函館に似た街「汀館」でふしぎな館の時計台に引き寄せられるフー子。いとこのマリカと映介と一緒にまるで何かに呼ばれるように時計台に引き込まれていきます。夏休みという特別な時間のなかで、三人はふしぎな体験をします。

日本版、「ふしぎの国のアリス」と言いたくなるような作品です。

今月の一句

しわくちやの梅干しとするにらめっこ

中2 女子

一年中ある梅干しですが、夏につくるので夏の季語になります。熟れた梅干しの酸っぱさを想像するだけでつばがたくさんわいてきますね。

梅干して人は日陰にかくれけり

中村汀女

新しく入ったホンの短い案内

「大村智ものがたり 苦しい道こそ楽しい人生」

ノーベル賞受賞 大村先生の物語 著 馬場鎌成

「舞姫」著 森鴎外

「野菊の墓」著 伊藤左千夫

「たけくらべ」著 樋口一葉

現代語訳で読みやすくなっています。